

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立東稜高等学校 】

1 実践テーマ	【I・II・III】
2 実施対象者	第1学年34名 総合的な探究の時間『スポーツ探究』選択者
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合的な探究の時間 )
4 目標 (ねらい)	新たなパラゲームを考え出す過程で、公平性や平等性の観点からパラリンピックやパラアスリートへの理解を深め、自身が取り組んでいるスポーツや生涯スポーツへの興味関心が高まることを期待する。
5 取組内容	<p>第1学年総合的な探究の時間(本校ではスポーツ探究・ライフワーク探究・サイエンス探究・コミュニケーション探究・ソーシャル探究・データ探究の全6コースに分類する)の内、スポーツ探究を選択した生徒を対象とし、生徒が新しいパラゲームを考案し、実践発表する取組を行った。</p> <p>前期クール全6回、後期クール全6回で行う。今回は前期クールに該当する。</p> <p><u>9/10【1回目】オリエンテーション</u></p> <p>①パラリンピックの概略説明</p> <p>②探究活動内容説明</p> <p>※どんなハンディキャップを想定したパラゲームにするのか、そのハンディキャップを想定した安全なルールを作ることができるのか、また誰もが一緒に楽しめるかつ競技性も確保できるのかなどのポイントの説明。</p> <p>※実際のパラゲームの例を動画で視聴し、イメージをもつ。</p> <p>③グループ作り(5～6人グループ×6班)</p> <p>◎オリエンテーションの様子</p> <p><u>9/17【2回目】グループ活動</u></p> <p>①グループのメンバー各自が持ち寄った案をまとめる。各班で司会進行係を決定し、自分で考えてきたゲームの発表を行った。</p> <p>※基本的には学校にある器具や道具を使って行うという条件の中で、新たなパラゲームの名称や基本となるルールを策定する。</p> <p>※体育館で実施できるルールや物品を考える。</p>

### ○9/24 【3回目】グループ活動

①2回目のグループ活動の続きを行った。グループのメンバー各自が持ち寄った案をまとめる。各班で司会進行係を決め、自分で考えてきたゲームの発表を行った。

※基本的には学校にある器具や道具を使って行うという条件の中で、新たなパラゲームの名称や基本となるルールを策定する。

※体育館で実施できるルールや物品を考える。

### ○10/1 【4回目】グループ活動

①具体的な内容の検討（分担や必要なものなど）

※グループで考案したパラゲームを実際に行ってみる。その中で出てきた課題や改善点を再度グループで検討する。特に安全面は配慮できているか、ルール通りに行えているか、必要な物品を確保できるかなどを検討する。

### ○10/8 【5回目】リハーサル（発表準備+修正）

①前回の活動時の課題や改善点を踏まえ、パラゲームの最終確認を行う。発表順の決定や発表方法の説明を行う。

### ○10/15 【6回目】リハーサル（発表準備+修正）

①前回の活動時の課題や改善点を踏まえ、パラゲームの最終確認を行う。発表順の決定や発表方法の説明を行う。

### ○10/29 【7回目】実践発表

2グループ発表（1グループにつき10分）



### ○11/5 【8回目】実践発表

2グループ発表（1グループにつき10分）



目隠し障害物競争

○11/19【9回目】実践発表

残り2グループ発表（1グループにつき10分）



○11/26【10回目】まとめ・振り返り

実践発表を終えて活動の振り返りや今後の学校生活にどう生かしていきたいかをまとめ、班の中で発表した。

○12/10【11回目】まとめ・振り返り

今年行われた東京パラリンピックの映像を観て初めて知ったことをまとめた。スポーツ探究の授業全体で何が学習できたのか発表を行った。



6 主な成果

- ハンディキャップを想定したゲームを作る過程で想像力を生かしながらゲームの組み立てを生徒どうして話し合いながら実践できた。
- ハンディキャップの想定は一定できていたように感じる。パラアスリートへの理解や、自身の生涯スポーツへの気づきと今後の改善を考えさせることができた。
- 「実践発表」という形をとることで、総合的な探究の時間の発表の場を確保した。
- 身体障がい者への理解、身体機能の多様性について理解を深めることができた。

7 実践において工夫した点（事業の特色）

- 実践発表の方法は、発表グループが違うグループにパラゲームを教えながら行わせる、という形を取った。例えばグループ1とグループ2をペアとし、グループ1のパラゲームの内容をグループ2がプレイする。グループ3～6はその様子を評価し、別途配布のチェックシートに記入していく。こうすることで、ただ単に全体の前でパラゲームを実践して終わりというものではなく、他のグループに指示を出したり、ルールを教えたりするなどの運営の難しさ、伝えることの難しさを感じさせ、グループ内での役割分担を明確にすることで、それぞれの責任を意識させた。

8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 昨年度の課題は、実践発表後の各個人の振り返りやグループ内での振り返りの時間が少なかったことである。今年度は、個人の振り返りやグループ内の振り返りの時間は十分に取れた。</li> <li>• 3日間に分けて6グループが実践発表を行った。各グループに工夫がみられたが、ゲームのルールの明確化、安全面での配慮などの工夫が必要。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1年生総合的な探究の時間を活用し、設定される6つのコースの一つとして実施していく予定。</li> </ul>